

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称： 地域密着型特別養護老人ホームこむかい	種別：地域密着型介護老人福祉施設
代表者氏名：施設長 己斐 聡美	定員（利用人数）： 29名
所在地：〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町1-3	
TEL：044-540-0170	ホームページ： http://www.misasakai.or.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2013年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人三篠会	
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員： 3名
専門職員	医師 1名 相談員 1名
	看護師 3名 調理師 3名
	介護職員 21名
施設・設備 の概要	(居室数) 29室
	(設備等) 個浴3カ所、特殊浴槽1カ所、 共同生活室3カ所

③理念・基本方針

法人理念：歩・実・心

施設方針：利用本位。（子供たちやご高齢者のことを中心に考える姿勢）

外部意識。（保護者・家族、地域、ボランティア等、お越しくださった方へのおもてなしの心や関わっていく姿勢。）

お互いさま。（職員関係：お互いを尊重する）

チャレンジ。（ベストサービスアワードへの挑戦：一歩前に踏み出す気持ち）

④施設・事業所の特徴的な取組

ノーリフティングケアを施設全体で進めており、年間計画の基、1回/月実施している。またノーリフティングケアの知識と技術の更なる普及を図る為、新人職員に向けて、年間計画の基、2回/月で施設内研修を実施している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年7月8日（契約日） ～ 2022年4月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

職員、利用者の介護負担を軽減する取り組みとして、ノーリフティングケアを掲げている

法人が力を入れている取り組みであり、毎月の研修や日々のOJTにより知識・技術向上に繋げている。定期的なNケア推進委員会や褥瘡防止対策委員会の開催により、職員全体でノーリフティングケアの取り組みに関する振り返りや褥瘡のアセスメントスケール実施後のリスク洗い出しを行い、利用者の自立支援及び褥瘡予防に繋げている。継続的な取り組みにより、職員の周知・定着まで至る事ができており、提供するケアの質の向上に繋がっている。

利用者一人ひとりの生活習慣を考慮して支援することを心がけている

利用者一人ひとりの生活習慣を考慮して、起床、就寝、食事、排泄等の時間を決め、個別支援に取り組んでいる。また定期的なモニタリングによってケアプランの進捗状況などを把握して、利用者から聞き取りを行い支援に反映させることにしている。利用者の生活が充実したものとなるように、面会などに訪れることが出来ない家族へは、郵便や電話で相談員や各部門担当者が情報提供して連携を図っている。さらに、職員がそれぞれの利用者に良いと思うことを全体で共有できるようにすることを目指している。

各種の研修への積極的な参加を促し職員の資質の向上に取り組んでいる

年間を通じて内外の研修計画を策定しており、入職年次、職域、職制に沿って職員の参加を促している。研修への参加も積極的に取り組んでおり、勤務シフトなどを調整して参加を支援している。事業所では重点的に取り組んでいるノーリフティングを学ぶ機会を設けたり、少人数の勉強会なども開催している。さらに、法人の資格取得制度などで職員のキャリアアップの支援を行っている。また、法人内表彰制度（ベストサービスアワード）を開催し、事業所での取り組みを発表する場を経験することで、モチベーションの向上に努めている。

◇改善を求められる点

介護職員が提供する生活リハビリや、身体を動かせる体操などの活動を定期的に取り入れることを課題としている

短距離でも歩行できる利用者には、歩く機会を提供したり、車いす移動であっても自走を促したりとやりすぎない支援を心がけて自立支援に努めている。機能訓練指導員は配置していないため、専門的な機能訓練を積極的に行う事ができない環境ではあるが、PT・OT・STからなる法人グループがあり、機能訓練や介護技術指導に関する相談を行える体制は整っている。利用者の身体機能向上・介護予防に繋げるための更なる工夫を目指したい。

中期事業計画の達成に向けた組織的な取り組みに期待したい

法人としての中長期事業計画をベースに、リーダー会議における協議検討を通じて施設の課題やニーズを抽出し、単年度事業計画を策定している。単年度事業計画には運営とサービスのそれぞれの基本方針を明示し、さらに具体的な施策項目に落とし込み達成を支援する手法を用いている。それらはリーダー会議などにおいて前年の達成状況の検証を踏まえて策定しており、未達成については次年度に継続して取り組むことにしている。事業所では単年度事業計画に、法人の中・長期的計画の骨子をさらに反映させることを目指している。

地域の社会資源を活用する機会を充実させることが望まれる

春は近隣の桜を見物するなど、地域の社会資源を活かして四季を感じてもらえるようにしている。ただし、現在は新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、運営推進会議も中止するなど、令和2年より新型コロナウイルス蔓延防止のため、積極的な地域交流が難しい状況となっている。尚、地域住民の参加を促して七夕飾りは実施をしたが、集まったの行事は中止としている。コロナ収束後には、地域の催事やイベントに参加する機会を設けるなど、ボランティアを含めて支援してもらえる外部の人材の組織化を図りながら取り組むことが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

サテライト施設で本体施設との連携を通して事業所の課題解決や委員会活動、研修の実施等を行っているが、もう一歩進んだケアや技術の向上を目指すため、本体施設だけでなく法人内組織の有効活用を継続していきたい。また、安定したサービス提供のため、施設内でのユニットを越えた情報共有や協力体制の強化を図っている。

コロナ禍でご利用者やご家族、地域との関わり作りに制限のある生活を送っていただいております。小規模であるため空間的にも限られた生活環境で行動範囲に制限があることについては、施設内での季節に合わせた行事企画だけでなく感染対策を徹底した上での外出についても今後は検討していきたい。あわせて、音楽療法やボランティアの活用も引き続き検討していきたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり